

お話し伺いメモ 2004

「あの突然の揺れと全てを覆した自然の猛威は、9年目を迎えた今でも一瞬も忘れられず、むしろ新しい色合いと発見を日々生み出しているその被災地に、人々の声に耳を傾け、自らに新しい学びを課せる週末ボランティアのお話し伺い訪問メモをご覧ください。共に未来を見つめるために。」

週末ボランティアの被災者宅へのお話し伺い訪問は、2001年4月からは第2、第4の土曜日に行われることとなりました。

プライバシー保護の為、内容には一部修正をいれていますことをご了解下さい。

1月10日

・80代男性。灘区で被災。自宅は全壊、夫婦2人暮らし。仮設住宅（北区）は幸せだった、と終始笑顔で話して下さった。（矢野、華山、東條）

・70代女性。灘区で被災、全壊。家族は無事。2003年11月に灘の浜で訪問者を装った女が包丁を持って入った強盗事件があつてから、一人でいるときの訪問者が怖くなった。家は全壊、3年間テントで過ごし、東灘区の仮設住宅に一番最後に入居。2年間そこでボランティアをしていて、茶話会や弁当の配布などをしていた。「ボランティアは仏の心がないとできない」。今ようやく落ちついた、環境のいいところにきて感謝している。「震災は忘れられないやろね」、「助け合っていかなあきませんね」。被災時現場に残って亡くなられた方の遺体の収容などにあたり、「乞食のような恰好」で頑張ったご主人をたいへん尊敬していて、現在も防災の有資格者として自分のことをほっておいても他人に尽くすご主人を「秀才」と呼んで敬意を表し、終りは明るい話となった。（矢野、華山、東條）

・70代女性。兵庫区で被災。仮設住宅は西区。一人暮らしで通院中だが日常生活は大丈夫。しかし問題はこれからの生活とお金。以前は主にクリスマスの飾り付けをつくる仕事をしてきた。昭和1ケタの生まれで空襲に遭い、周囲は焼けたが自宅は焼け残った。戦災で焼け残った街も震災で消失した。シルバー乗車券は便利で助かっている。（佐沢、原）

・60代男性、夫婦2人暮らし。兵庫区で被災。仮設住宅は西区。震災当時からいろいろなボランティアをしている。今の住まいに住んでまる4年になるが、不満足で仮設住宅の方が良かった、と言われる。20代の頃は、港湾荷役のきつい仕事をしていたため、作中に倒れたときも「作業場にいたつもりが、気がついたら病院だった」ということがしばしばあつたが、それ以降は現在まで健康でいる。震災10年目で忘れてならないことは、助け合いと普段から大地震の備えをしておくこと。年金の改善と公害をゼロにすることを願う。バスの増発を望み、市には街を壊すことを止めてほしい。（佐沢、原）

・60代女性、夫婦2人暮らし。ご主人は脳梗塞の後遺症で1級障害者。東灘区で被災。垂水区の仮設に避難のち東灘区の民間マンションに。仮設住宅は人間的に良かった。奥さんが怪我をしたため定年を2年早めて退職したため、公営住宅に移ってきた。飼っているフェレットが奥さんの癒し。訪問時は、東灘区のご近所の方に連れて行ってもらって、新鮮な野菜や肉などを買いに三田に行って帰ってきたところ。それらについての話題を交えつつ、上がり込んでの訪問となった。震災には水・ラジオ・乾電池の準備を。市にはすぐ行く医院をつくること、福祉を

削らないこと、を願う。(佐沢、原)

・70代男性。灘区で全壊被災。南側にすわり高い建物が建ち、海は見えなくなり、陽射しも悪くなった。やがて人が入ればこちらの家の中はまる見えで、うかうか裸にもなれない。プライバシー侵害と防犯面でも気がかり。せめて安く買い物のできるスーパーでもつくってほしい。震災は忘れた頃に来るということ、防災面でのキャンペーンを続けてほしい。(本人記入)

・70代女性、一人暮らし。兵庫区で被災、自宅は倒壊し、夕方には全焼した。ローンが残り、区画整理で土地を売って返したが、まだ残債あり。仮設住宅に当たらず、北区の民間マンション(家賃月8.5万円)で4年間過ごす。入居してすぐ水が使えたのが良かった。夫を亡くしたあと、こちらに移って5年になる。ここは最初の頃は見学者が多く、外国人や天皇もきた。ここは子どもや若者の声が聞こえない、不自然な、普通ではない生活である。老人ホームの一步手前である、と言われる。元気で動けるうちはいいけど、病気のときがたいへん。1Fの共同スペースでお話し伺い。(華山、長船、矢野、榎原)

1月24日

・60代後半、男性一人暮らし。震災時、マンションと店がつぶれ、長田で死体を運んだりもした。この棟は平均年齢75才。年寄りや病人が多く、これからたいへんなことになる。4年で7名の方が亡くなられた。設備は完備しているが、アフタケアを考えていない。入れてしまえばそれまでで、痴呆などが発生し、夜もものすごい音がして眠れない。掃除や洗濯や炊事ができる人が助け合って住むとのコンセプトのはずが、飲酒や痴呆の発生で困っている。洗面器と便器の区別もつかず、エレベーターに垂れ流しも。一部屋にゴキブリが出ると他の部屋にも影響。LSAの人も「頑張ります」と言うが年寄りばかりでグチャグチャ。こんな状態で「自立」だろうか、とかなり厳しいお話しを伺う。また、意識不明の様にして救急車で運ばれるときに「お一人ですか?」「何歳ですか?」と聞かれるのはかなわんで、自作の「安心カード」をつくったとご披露を受けた。家族持ちの方でも単独行動が多いので有効、一人でないと錯覚、とのこと。貴重なお話しであった。(中山、華山、長船)

・70代女性。エレベーターの掃除がたいへん。ゴキブリが多い。階段に手すりが片側しかない。ペットを飼っている方がいる、臭いや声がする。など伺う。(中山、華山、長船)

70代女性。全壊、水道管の破裂で家財が水没。「私らの年代は戦争も水害も知ってます。」自転車や車にぶつけられ転倒してその都度リハビリ。「何とかお世話にならないように前向きに生きていかなきゃしょうがないわ…」と生きていけば何とかやっていけるとの意気込みを感じた。しかし、ここは近所付き合いの感覚は少ない。あまり外に出てこないし暗い感じ。一日誰ともしやべらないことすらある。じっとしてたら「自分がダメになる」とまで。ここは自治会やイベントもないが、仮に集まってもみんなしんどそうやろうし、と言われる。LSAは年に1回しか来ない。24時間監視システムはありがたいがボタンがいろいろあってご操作したり。インターホン位置がベットから遠くて不便。高齢者になると、理不尽なことでもことなかれ主義で「ガマン」しているのではないかと。意見があっても言わない、とのこと。ここでは笑いが無い、とのお言葉がいつまでも頭に残ったお話し伺いであった。(中山・華山・長船)

・60代女性、一人暮らし。灘区で全壊のち全焼。5分ぐらいで火が回ってきて焼けた。戸が開かず、壊れかけた壁から逃げようとして2度目に成功し壁穴を裸足でパジャマのまま抜けた。煙りが尻のところまで迫ってきていた。火は怖いから見ていない。ドーンドーンとすぐに焼け

た。近所でも5~6人死んでいたらしい。詳しく聞こうとして怒られたことがあり、生きているから口出しできない。事実関係もはっきり知らない。2時半に小さなおにぎりをもたらした。水が出ないのが辛い。風呂には17日間入れなかった。寒いと考えたこともなかった。夫さんは2年前に亡くなったが、昼間は働いているから生活は困らない。近所の何人かのお年寄りのボランティアをしている。お年寄りも金銭的にも問題が多い。「イラクの人には悪いけど、ここにも援助したい人がいっぱいいる」と語られる。(佐沢、東條)

・70代男性、一人暮らし。兵庫で全壊、半壊。火は直接燃えるものではない。火は飛んできて自然発火する。またカケラが飛んできて、少しするといびいてくる。屋根から湯気が立って、燃える。消火栓が2ヶ所とも水が出なかった。17日の夜燃えたが、朝の2時半までドブの水をすくって火消しをし、延焼を止めた。焼けた者の気持ちとして、これは人災である。生き埋めや、足を挟まれて生きながら焼かれた方もいる。止めたらんかいや、という者もいたが殺人になる。立ち話でできる話ではない。被災者生活再建支援法の制定要求では東京へも数回行った。写真など貴重な資料を見せていただき約1時間のお話し伺いをさせていただく。(佐沢、東條)

2月14日

・70代男性、妻は入院中。兵庫区で被災。家は全壊ではないがグチャグチャになり、仮設には行かず家に住んだが、ひびが入り何もかも壊れていた。地震から一切何ももらっていない。妻が介護センターに入って週に5回見舞に行く。何も食べないので困っている。ジュースのパックを一本飲むのに1時間もかかる。自分も脳梗塞で、ちょっとしかない年金だけで暮らしている。神戸には30のとき福岡から来た。神戸は建築ラッシュでいろいろな仕事をした。毎日の努力はためになる。一生懸命やったことは身につく。本を読むだけやったらあかん。と、元気だった頃のお話しにも励まされ、みんなで約1時間のお話しを伺う。(塚元、矢野、戸田、増田、佐藤、中山)

・70代女性、一人暮らし。中央区のマンションで被災。震災の直後ドサクサの中でダンプに轢かれた、とのこと。膝の皿を割っており腕の骨を折っている。自転車に乗れないのが辛い。ここは買い物がごっつ不便と嘆かれる。何とかしてほしいとみんな言っている。たった1軒のコンビニは酒やお菓子は多いがおかずが少ない。貨物線の跡地に駐車場をつくっているがそれより買い物ができるところをつくってほしい。地下鉄ができてバスの本数が減りタクシー代がかかってかなわん。海岸線はこしらえる必要あったのか？混むのは朝夕だけ。「さっき乗ったけど、一人だけやったで」とのこと。ここは夜中にホームレスの人に「金くれ、メシくれ」と追いかけられたことがある。暴走族が多く、勝手に入ってきて走る。うるさくて弱っている。見知らぬ人が入ってきて酒盛りをしていることもあって、それからカギを閉めるようにした。ホームレスの人が中に入ってエレベーターの後ろで寝ていたこともある。など、短い時間に多くのお話しを伺う。(塚元、矢野、戸田、増田、佐藤、中山)

・40代男性、家族は用事で帰国中。震災時は留学生であった。1月15日に一時帰国から戻ってすぐに被災した。すぐ手前のマンションで十数人死んだ。留学生の友達も2人死んだ。安いマンションで4~5万くらいで風呂付きだったから、留学生が多く入っていた。当時のことは「思い出したくないですね。でも日本人の人間性を見た。何もありません。でも皆ガマンして、何も不祥事を起きなかった。震災のとき、不思議だった。皆、ルールを守っている。そのとき見た人間性の良い面がもっと日本全体として広がっても良いんじゃないですか」と貴重なお話

し。「避難所では、あなたのものは皆のもの、皆のものはあなたのもの、として使っていたし、当り前の様に年配の人、女性、子どもは校舎の中、寒くても男性は校舎の外。優先順位は言わなくても守っていた。それは素晴らしいと思いますよ。若い男性は運動場におります、寒いのに。」外国の常識では考えにくいとの具体的なお話し。神戸が好きだ、新しい建物も建ったしこれからの神戸が楽しみだ。が「これからもっと大切なのは人間性、スピリット（精神・魂）を人々がもっと持つ方がいいかなあと思っている」と期待を述べられた。震災後は各所に文章を書いた。「あーいう人は何故、自分のことを忘れて、人を助けるのか、それを教えなければいけないので事実を書いた」。この建物には若い人は2人しかいない。高齢者住宅で一人暮らしのおじいさんおばあさん達のこれからはたいへんだとおっしゃる、若い元留学生被災者から力を頂いた、長時間のお話し伺い。（井上、葦原、堀内）

・60代女性、一人暮らし。中央区で全焼。「思い出したくもない。神戸は金が出なかった。もういい！、もういい！」（永田、猪上、佐沢、東條）

2月28日

・60代女性、一人暮らし。施設内を見せていただきながら多くのお話しを伺った。「市場をつくらなければ住宅ではない」との格言をいきなり伺う。県や市の連絡員も来ない、LSAも来ない。死亡しても連絡すべき人が居ない例がゴロゴロある。この棟54人中この4年で8名が亡くなった。全て高齢者。この場所の問題点は住んでみないとわからなかった。掃除しにくい、手すりや階段が危ない、来客用の部屋がない、事務所は使われていない。公共の場所がやたらと広くて部屋が狭い。外に非常階段があるが犯罪の可能性があり目潰ししてあって使えない。行事は何もしていない。世話見る人が高齢化している。高所の掃除など公団は自治会でやれというが、金がないのにできない。他のコレクティブも見学したがLSAも常駐しているし、ケアもし、来客用の部屋もある。ここは設計ミスだ。こんな中途半端なものはつくるもんじゃない。居住者のことを考えていない。高齢者を甘やかす必要はない。してほしかったら自分で言って来る。など約1時間、貴重なお話し伺い。（増田、佐沢、東條）

・70代男性、東灘区で被災。全壊。奥さんと2人暮らし。お世話役。梁の下敷きになり意識不明となる。戦争中は乗っていた艦船が攻撃で沈没したが助けられる。この住宅について「ここは非常に恵まれたケースで、問題もほとんどない。しかし、これからが心配だ。平均年齢は確実に上がる。今後自分達だけでやっていけるか不安がある。」とお世話役の立場からご心配をもらされる。44世帯中ヘルパーさんが来ているのが7世帯。ゴミは週1回フロアーの一斉清掃。月に1回大掛かりな掃除。参加者は半分だが「皆高齢者だからあえて強制はしない」とのこと。入居以来8名の方が亡くなられたとのこと。スーパーもなく不便な住宅であり、役所にもいろいろ言っていこうと思っている。これからも来てほしい。と長時間のお話しを伺う。（山中）

・60代女性、一人暮らし。中央区で全壊被災。表札の男性名は用心のため。斜面の家が倒れたときに屋根の土が落ちて扉をふさいだ。駆け付けた息子が「もうダメだ」と思ったが怪我ひとつせんで、涙を流して喜び合った。ところが親戚の家に避難しているとき震災ノイローゼに悩まされ、周りに迷惑をかけ、気遣いで声が全然出なくなった。だから西神の仮設が当たったときはほんとうにうれしかった。しかし仮設で目を患い、同時にあらゆる病をした。この復興住宅はしっかりした造りで安心だが、セールスが多いのでうっかり戸は開けられない。インターホンで「来客中」と言って断る。働きすぎで主人が亡くなってから17年になるが、子ども2人

は世帯を持ち地方に居る。遺族年金で暮らしているが病院代が嵩む。こういう立派なところ入れてもらってありがたい。地震のときもいろいろ頂き感謝している。国にも力があつたからこれだけしてもらえた。今度、南海とか東海とかの地震があつたとき国も借金が増えておりたいへんなことになるだろう。震災のおかげで苦勞もしたけど良い人達に巡り合えて良かったと思う。仮設のふれあい喫茶で「仮設をもらえて良かった、ありがたいことだ」というと、こんなことで満足していると何もくれなくなる、と文句を言われた。口実をつくって行かなくなった。ここでも人付き合いは難しい。怖い人もいれば日によって機嫌が良かったり悪かったりする人もいる。こんにちは、と常識的なあいさつをしてそれ以上踏み込まない。こちらは年寄りだしうるさがられてしまうだろう、と。ただ、もっと身体が悪くなったら福祉の方へいかならんようになると思う。ここは60才から70才くらいの一人暮らしの男性がブラブラしているのが不思議、など。清潔なお部屋の中で、コーヒーやお菓子を出して歓待して下さった。こんこんと湧く泉のように話しが尽きず、2時間があつという間に過ぎた。予告チラシを冷蔵庫に貼って、忘れないようにして待っていて下さっていた。同行の若者が、大きな感動を受けたと興奮の2時間のお話し伺い。(葦原、華山、堀内)

・70代男性。夫婦と息子3人暮らし。中央区で家つぶれ、裏の酒屋さんが氷水を解かしておかずを炊いて持ってきてくれた、涙が出た。加古川の仮設に3年いた。全国からお世話になった。今の日本人は怒りを忘れていと多彩な政治談義のあと、次の依頼を述べられた。「下のベンチで座っている人に声かけてやってくれ」。市場で通り掛かりの人に「元気か」と声かけてやってくれ。ごつつちがうで。高齢化社会では声かけが大事。一人でいるとうつになる、言葉をかけてやってくれ。「絶対さびしい思してるで」。(矢野、井上)

・60代男性、一人暮らし。ここは入って5年になるが年寄りには不便なところだ。売店は1軒しかなく独占で品ぞろい悪い。振動・騒音・悪臭耐えられる者だけが入っている。仮設解消の最後の者が入っている。自殺者もようけいる。知り合いも死んだ。借金ようせん人間は餓死する。階段の踊り場で話しかけられる。(矢野、井上)

・70代女性、一人暮らし。中央区で被災。最近ボケ気味で顔も覚えられず。息子が来て泊まっています。最近頭の毛が抜けてそれが恥かしくって悩みです。社交がヘタで外に出るのがイヤで。集会所も行ったことがない。となりはどんなことしているのかなあと気になるが、勇気がなくて声をかけられない、とおっしゃる。こんな話したのが初めて。また来て下さい。と玄関先でのお話し伺い。(矢野、井上)

3月13日

・60代女性、夫婦2人暮らし。被災時お店を2軒経営していたが、トアロードと大開の2店とも全壊して借金だけが残った。今もその借金を払い続けている。今はご主人が働いてくれており、慣れない力仕事から喘息を発病している。国民健康保険が高いのでまとめて払えず1ヶ月ごと更新している。肺がんの検診も長いこと受けていない。検診で余計な病気が見つかる困るので行かない。今度病気になったら医者には行かないつもり。この住宅ではご主人がアルバイトの仕事から帰ってくるまで一言もしゃべらない。廊下に出ても、1ヶ月程も人にあわないことがある。エレベーターで一緒になった人にセーターの袖をつままれて「えーの着てるんやねえ」と嫌味な口調で言われると気が重くなる。震災のとき、持ち出す荷物に限りがあるから良いものを選んで持ち出した。お客さんにもらったものとか。今は新しいものを買う余裕がないのでそ

れらを着ているだけ。ご主人が仕事の帰りに、しゃべるぬいぐるみを買ってきてくれた。(物音がすると笑う人形、モオーツと鳴いて モ・モツ・モツと笑う牛の人形など、見せてもらった。テーブルにつまづいても アツハハ!と笑う声がするので気がまぎれる、と言われる)。ご主人や子ども達との数奇な出会いと生き死にを越えた今日までの物語を2時間20分に亘って伺う。「こうして自分のことを振りかえって話したのは初めて。まあいろんなことがあったものだわ。小説みたい」と言われるご様子に、訪問ボランティア達も感動をいっぱいを受けてお部屋を辞した。(増田、堀内、中山、戸田)

・40代男性、一人暮らし。中央区で被災。金のないヤツは死ぬと言うようなもの。インスタントラーメンしか食べていない。滞納で追い出された者もいる。生活再建というけれど絵に描いた餅。空論だ。ほんとうに救うべき人が救われていない。40代となると就職がない。生活保護を求めているがダメ。ここは須磨や長田からの人が多いが、三宮が近いという理由で移って来たが失敗した。引き続き頑張ってください、と。(高橋、矢野)

・80代女性、一人暮らし。健康でどこも悪くない。「おはよう」と声を掛け合う。地震はどうしようもない。寝てたらドーン。一瞬の間もない。いざとなると何もできない。何がどこにあるかわからない。ドーンと来てどこにおいてもダメ。タナもどさっと落ちる。懐中電燈おいてもダメ。ガーとなって戸が開かず、生きた心地しない。足元がガラスとガラクタでいっぱいとなった。にいちやんが壁をよじ登ってくれ窓に隙間があつて助かった。窓から入ってガラス破つて来てくれた。何を持ち出す余裕もなく頭の中真っ白のまま手ぶらで家を出た。帰ったら何もなかった。ドロボーが昼間から何人かでトラックで来て持っていった。タンスの中はカラッポ。それ以降タンスはカラッポ。仮設のときも不自由せんかったし、何も要らない。この住宅は心地良い。(矢野、高橋、東條)

・70代女性、一人暮らし。訪問時数名の女性が部屋で集まってお話しをしていた。別の階から来て、ボランティアで気晴らしの持ちよりお茶会をしている由。西宮で全壊、仮設住宅、民間借り上げ住宅のあとこちらの復興住宅へ。先日二日ほど意識をなくして室内で倒れていた。24時間水道を使わないので警報装置が「緊急事態発生」「緊急事態発生」と百回ほど音が出ていた。となりのご主人が「緊急解錠キースイッチ」で入ってきた助けられた。これがなかったら死んでいたと思うとのこと。もっと他にも、引っ張りで消防に通じるようなスイッチが欲しい、としきりに言われる。簡単な音の出るものでも効果があるだろうと考えさせられた。地震はいつ来るかわからない。大事なものは集めておいたが最近ではバラバラで、気がゆるんでいると笑われた。部屋のお友達からまだ～、と声がかかり、良いお仲間にも恵まれた明るい生活を感じた。(矢野、高橋、東條)

・50代女性、子ども2人。ご主人は地震の前に亡くなっているが、その3ヶ月後に発病し半身不随の車椅子の生活。東灘で全壊被災。大阪へ避難した。震災後の苦労は忘れてしまった。今の希望は、国民年金が少ないので生活を何とかしたいこと。しんどいですねと、半身不随ということで何度か言葉に詰まる場面があった。しかし、なるべく多く話してわかってもらいたいという気持ちが伝わってきました。(矢野、高橋、戸田、東條)

・50代男性、兵庫区で全壊、一人暮らし。本人記入の支援シートを郵便入れで頂く。「いつも気にかけていただきありがとうございます。仮設にいるときは糖尿病の合併症で全身が痛く苦しんでいましたが、良い薬に恵まれ痛みも取ました。現在は仕事もできるようになり、頑張っております。本日は仕事の都合で失礼します。震災10年目で忘れてならない言葉は『備えよ常に』、

市政で続けてほしいことは『見守りサポーター』『住居費の補助』、市政で止めてほしいことは『神戸空港』、交通についての要望事項は『バスの便数を増やしてほしい』（本人自筆）

・80代女性、本人書き込み。阪神・淡路大震災、もう9年余り。その後の生活などのことで書き込み用紙を持って来て下さっておりますが老齢のため無理。他のお家で書いてもらって下さい。震災は東灘区、もちろん全壊でした。それから神戸の西区に1年、北区の仮設住宅に4年と現在のマンションに5年となります。9年余りになりましたが現在は90才近くずっと一人暮らしですが時々息子の嫁が訪ねてくれます。（本人自筆）

「いつもありがとうございます！！ あいかわらず元気にて過ごしております。時々カラオケなどに行って楽しんでおります。今日は出かけますので、ごめんなさいね。（本人自筆）

3月27日

・60代女性、一人暮らし。震災翌年の5月ポーアイの仮設住宅で広告紙の裏にメモした手記を見せていただく。見せていただいた手記を以下に転記します。

「私は6時半に目覚まし時計を合わせていたのですが、地震のために時計が狂いました。ドカンと音がしたと同時に時計がリンリン鳴り響き渡りました、ベルを止めるのが必死でした。その間、震度7の揺れはすごかったです。何分か何秒かはわかりませんが時計は止まりましたがでもまだ揺れています。ふとんにもぐりました。その間の長かったこと。揺れはようやく止まって、ふとんの上に座りました。どうしようかと思いました。そうだ、身軽なものだけ持とうと思いました。一度先に窓だけ開けてみようかと思いました。窓は動きませんでした。窓ガラスを破るしかないなあと思いました。カナヅチをとる気力がありません。身軽なものかと思い、時計5個（あと見せていただきました）、会社へ行く用意をしてあったハンドバック、貯金などが入っている袋が身近にあったのでそれを取り、どこから逃げようかとふとんの上に座っていると南西の上の壁がつぶれていくのを見て、そこから逃げることを最後の手段として残しておこうかと思いました。なんだかのんきそうですが、これはほんの短い時間でした。

そのときです。外で中年の男性が大きな声で、「みんな今助けてやるからな」と声が聞こえたので、私も助けてもらおうかと思いました。がそのあとすぐ「あれ、これ何や、火事か」と言う声がしてどこへ行ってしまう。そのとき窓を見ると煙りとうすい火が写っていました。

あれ、このままでは死んでしまうと思ってすぐ先程の壁の場所に行き壁穴に頭を突っ込もうかと思いました。1回目は失敗です。そのとき、あとを振りかえると煙りがほとんど50cmぐらいのところまで来ていました。人生楽しくないし、ここで死ぬかと半分思いました。でも頑張ろうかと思いもう一度頭を突っ込みました。するとからだの外へ出てあれかと思いました。パジャマを着て足は裸足のままでした。

（平成8年5月19日、日曜日。ポーアイ仮設住宅にて、快晴で良い気持ち）

・60代女性。一人暮らし。灘区で被災。娘さんが40代で高校生を先頭に4人のお孫さんがいる。年金で食べているが働きに行きたい。ここに来てこもっていてもいけないので宗教に入った。

賑やかなお葬式をしてくれるので入った。車を見送るのが2~3人と言うのはさびしいから。でも宗教は気が狂ったみたいになる。宗教と政治が一緒というのはおかしい。まあいいか、で一票を入れる。訳わからずに入れている。こんなの言うのおかしい？ 内部で言う人は少ないですよ。だから口には出さないが批判している人は多いです。口に出したらエライ事。大体10軒に1軒はそうです。と気さくなとらわれないお話しとなった。(佐沢、東條)

・70代女性。夫と2人暮らし。灘区のアパートで全壊。木造住宅が全部北へ向って倒れた。数日息子の家にいたあと県外へ避難したがポーアイの仮設へ戻った。この県営復興住宅へ移ったのは5年前。狭いが三宮に近くて便利。ここにはいろんな人がいる。お互いに助け合った昔の隣保の付き合いと違う。我が良ければそれで良い、と言う付き合いだ。子どものマナーなど問題。ヘタに注意もできない。コレクティブは入りにくい。エレベーターで出てきてほしい、と言う家だ。募集していたがイヤだった。お話し中に上の階のお世話役の方が来られ、長い打合せになったので辞去した。比較的戸数の少ないこの棟は付き合いも多い明るい感じを受けた。(佐沢、東條)

・50代前後の女性。年齢のせいで仮設に入る前の避難所に何年も居た。仮設暮らしも長かったです。ポーアイの学校は独特の雰囲気子どもがなじめないで困った。不況で仕事を減らされて仕事探しがたいへんだった。今は子どももようやく落ちついて高校を卒業したが、なかなか仕事が見つからない。いろんな壁ってものすごく大きいです。弱者に対して壁がある。矛盾が沢山ある。こういうことがあっても負けないで何とか前向きにね。どっちが勇気付けられるとかじゃなくて、お互いに支えあって生きているんだ。神戸にはお金があるからこういうところにこそ使うべき。外回りはすっかりきれいになっているが、窓を開けると高速道路の排気ガスが入る。切々と約1時間のお話し伺い。(塚元、永田)

・「90ナンボになっていますわ。皆にいろいろお世話になっています。今、週3回のデイサービスに通っています。ここに変なセールスとか来るので、息子から『やたらドアを開けるな』と言われてねえ。すいませんねえ。私一人では出ないことにしているんですよ」とお声はお元気で若そう。それではお元気で、とこちらも元気でインターホン越しのお話し伺い。(赤西、矢野)

4月10日

・70代後半、女性。「お話しすることはありません」と訪問を断られたが、エレベーターに乗ろうとしたときに、引き止められた。「ちょっと言いたいことがある」「はい」。あんまり人には言えないけれど実は生活保護を受けている。生活保護が今年になって1万円も減らされた。来年も減らされると言われた。神戸市に理由を聞いたが『国が決めたことですから』と言われただけ。年寄りイジメや！ 小泉さんは許せない。小泉さんは年寄りをイジメている。年金もこれから下がるという。生活保護をもらって何もぜいたくしている訳じゃない。このまま生活保護も年金も減らされ続けたら、年寄りは何も食わずに死ね！と言っているようなもんだ。私は小泉さんになるまでは自民党を応援していたが、小泉さんになってから自民党が大嫌いになった。「あんた達若い人には、年寄りイジメの小泉さんにこのことを言ってほしい」、と必死の訴えをお聞きした。(猪上、華山、藤原)

・70代女性お2人と立ち話20分。一人でいる。何も言うことないけどねー、名古屋にいる子どもがいてくれたらねえ。仮設は三宮へ出るのに2000円もかかる北区にいましたよ。家は全壊で、

その後ボランティアの人が荷物を持っていくといわれ、全部持っていかれてしまいました。それ以来ボランティアと名乗る人は絶対に信用しません、と強い口調で言われた。近所の人とはエレベーターで会ったときにあいさつする程度。最近やっと落ちついたところです。とお2人とも声が大きくお元気そうでした。(矢野、原、堀内)

・70代後半女性。震災以来糖尿病でインシュリンを打っている。肺がんといわれてから2年経っている。たまにLSAの人がのぞきに来る。いつ死んでも良いと思う。部屋に非常ベルも全部ついていて。神戸には身内は誰もいない。怖いから他の人は家に上げない。男の人も怖いから家に上げない。大きな建物が建って海が見えなくなり面白くなかったと嘆かれる。(増田、須貝)

・80代女性。足が悪い、骨粗しょう症。寝込まない程度に病院に通わないといけない。カルシウムをよく摂取。北区の仮設に4年ほどいた。血圧が高く薬を飲んでいる。長生きせなあかんワ。人とよくお話しする。楽しい話しは痴呆の予防になるとおっしゃる。(増田、須貝)

60代の女性。夫が職場で倒れ亡くなってその片付けが済んだ頃、地震に襲われた。5年間は何もする気にならなかった。その日の生活が精一杯で、その日が何とか過ぎれば良かった。目標が持てない。周りへのお手伝いも気持ちがついていかなかった。ダンボールもそのまま、必要なものだけを買って来て生活していた。5年間は雲をつかむようだった。5年目にやっと落ちついてきた、といわれる。(東條)

・ボランティア参加者よりレター。どれほどの方が「現場」を理解下さるでしょう。例え理解が少なくとしても、現場の人間としましては、出会う方々に心をこめて、ほんの一時でも「気にしてくれている人がいる、独りじゃないんだ」という思を持っていただければ、たった一人の人でも喜んだ頂ければ、というささやかな願いをこめて、訪問を続けるしかないということでしょう。またいつの日か参加しお目にかかります。

4月24日

・70代ご夫妻。ここへはこの3月に入ったばかり。地震のあと親戚のいる他県へ行き、しばらくしてから神戸に戻った。神戸にいた兄弟達はみんな地震に会って親戚を頼りバラバラになってしまった。夫さんは半身不随でほとんど動けない。自分は全身に鉄が入っていて何度も手術をしているがなかなか良くなる。3日おきに近くの病院に通っているがそれ以外で外に出ることはほとんどない。週3回のヘルパーさんが来なければ生活できない。今は健康のことだけが心配。(猪上、華山)

・80代女性、一人暮らし。灘区のマンションで被災。大阪に避難していたが、山を見たくて神戸に帰りたい。神戸に帰ってきて良かった。調子が悪くなったらどうしよう、が心配。ケアライン119を頼りにしている。年寄り同士の友達がいるから大丈夫！ ケアの人がいるからとても幸せ。昔のことを思い出して頭の回転を計っている。(原、堀内)

・60代後半女性、一人暮らし。訪問するとすぐ室内へ招き入れていただき、お話しが始まる。切れ目なく2時間40分、今の環境と人間関係の難しさ・痛みを話し続けられた。とき涙ぐみ目頭を熱くして、身体の中にいっぱい溜め込まれていた不満や怒りをはきだされた。今日の訪問では、しがらみのない第三者という週末ボランティアの立場を知って、安心して言葉にして下さったようだ。ここには病院や美術館があるのにスーパーがないのが欠点で、それが人の交流を妨げているネックであり、商店があることは皆さん望んでいることだ。震災後、良い目を見て

る人と苦しんでいる人と分れて矛盾しているなど、具体的なご意見も含めて被災地生活の無数の生々しいエピソードをお聞きした、週ボラ冥利に尽きる訪問であった。(貝沼、増田、矢野)

・80代男性、一人暮らし。腰とか足が悪く病院に行っても直らない。電動車椅子があるが1回教えてもらっただけで練習ができていない。通りまで行きたいな。慣れて来たら買い物にも自分で行けるようになりたい。掃除はケアセンターの人がしてくれる。昔は港の中の仕事や土木工事をしていた。震災後は西神の仮設に4年もおった。ここへ来たのは去年。官僚連中といっても大したことない。自衛隊がイラクに行くなど、今は内閣自体がおかしい、などお話を伺う。(原、堀内)

・60代女性、夫婦2人暮らし。中央区でマンション全壊被災。年齢的に中途半端だったし商売をしていたが、神戸市は商売への援助は一切なかった。350万貸してくれたが毎月2万円返すのがたいへん。国民年金のことだが、40年支払ってきて7万円の年金。フツと思うことがある。これは生活保護の金額よりも低い。一生払ってきて生活保護より少ない？ 生活保護の方が年金より良い？ 商売のお客さんからもそんな声が多い。震災10年と言うが人間は忘れてしまう。全国で津波の被害が言われているが、対策はないだろう。忘れた方が良いのかも。(佐沢、東條)

・70代男性、一人暮らし。パジャマ姿でお腹を抱えながらドアを開けられた。「しんどうて、玄関に出るだけでたいへんや。病院にも行なくて。新開地のアパートで全壊で……話し出したら切りがないで。協力はしたいのやけど、これでゴメン」に、ありがとうごさいましたお大事に、と心から大きく頭を下げて辞す。(佐沢、東條)

・70代前半男性、一人暮らし。要旨「被災したときは60少しでまだ働いていたのですが、10年もして70代になりました。10年の間に2度も入院して手術し、今は外出も一人でできるようになりました。身体が不自由になったらどうしても人の助けが要ります。今は世の中全てがメディア化されてしまい、少し厄介なことになっているのではないのでしょうか。何か言えば、笑われてしまうのではないかと心配して、結局は無口になり、何も言わない国民になっています。」との本人書き込みを頂く。ご訪問は2時間におよぶ話しこみとなった。メディア戦争。メディアと国民との戦いなど独特の話題でボランティア、勉強になりました。(猪上、原、華山)

・60代後半女性、夫と2人暮らし。長田区で被災、ドーンドーンと3つ音がしてうつむいたのだけを覚えている。母と3人で埋まった。気がついたら真っ暗ななかで「お父さん、どうしたらいいの?」「助けてもらわなしょうがない」。外の人の声は聞こえるので、エネルギーを残して大声で叫んでいたら、あのおばちゃんの声だ、と近所の人に8時ごろ掘り出された。50年住んでいただけあって、ご近所の助けはありがたかった。みんながよう助かった奇跡的に、と言ってくれたが、一人の怪我もなく感謝せねば。だが、何に感謝すれば良いのかわからない。子どもが出張中で、3人とももうダメだと思っていたという。親戚も名前が出ないのは生きる証拠と思おうとしていたという。ケイタイをかけてみたら「生きてたー」。8時ごろ火が出た。助かって10年ここまで来た。思い返して今年初めて東遊園地に行かしてもらった。亡くなった方々を見て、知って、自分達が助かったと言う実感がした。祈りたいと思った。泣いた。1.17メモリーは必要だ。助かった方にも亡くなった方にもなおのこと。9年まで自分の生活だけであわただしかった。こうして家もあって年金で細々と暮らしていて。これも人生の一つかな。自由業のため夫の年金は月6.5万円ぐらいで私の年金の方がちょっと多いぐらい。それも

どちらか死んだらなくなる。いくらひっそり暮らしても最低の費用は必要。神戸空港など要らない。但馬空港も税金でもっている。原口さんの頃につくっておけば良かった。神戸空港への批判は多い。あとのこと考えて、子供らにどないしたら良い？ 神戸は大きな工場を外へやってしまった。産業がない、税金が入らない。震災は予想外だった。思もかけなかった。他人事であった。神戸には来ないと思っていた。雲仙や奥尻への援助との差は大きい。被害者が少ないからか？ 仮設は西神、子どものときから生まれ育った神戸が良い、静かで住みよい町と言われる。わずか40分の立ち話で、書ききれないほどの人生を伺わせていただいた。(佐沢、東條)

5月8日

・60代女性、夫と2人暮らし。六甲道で被災。3時間生き埋めでねー。大丈夫です、元気です、つて言うてもヘリの音で聞こえないのよ。近くで300人も死んだとあと知って慄然としたわ。「不足は言いたくない、生きてるし」。でも語り部の人の話しなんか聞くと、私の方がすごいなあ、と思う。長田、長田言うけれど、燃えたのがたいへんだったが、地震でたいへんだったのは六甲道。瞬間に亡くなられた人、沢山おられます。被災後すぐに、掘り出された履物と水一杯やっと手に入ったのがうれしかった。、近所の人を持って来てくれた。亡くなった方の家族が上着を貸して下さって、9年経っても捨てられません。今思うたら夢の中や。地震は頭の中でどんどん小さくなって行くが、今でも月に2、3回は元の町に行きます。仮設住宅は鈴蘭台やポーアイなど4年半も遠く臭いった。夫は仮設店舗で頑張り過ぎて、半年入院。私も交通事故で半年入院。この棟でも若い女性の飛び降りがあり、今も手を合わせる。住みにくかったのか心がすさんでいたのか。孤独死も当時多かった。今は皆さんの顔もだんだんわかって来て。当時はみんな孤独だった。「話すことは何もない」と言われながら、約1時間のお話し伺いは、9年前の失った自宅と店のことが、まだ尾をひいていることを切々と感じさせられた。(佐沢、猪上、阿久沢)

・60代女性、夫と娘3人暮らし。灘区でマンション全壊、打ち身だけで助かる。4年間奈良県の県営住宅へ県外避難していた。年もとらずずっと神戸暮らしだったので帰ってきた。奈良は人情の厚いところだった。親切な方が多く野菜がポストに入っていたりした。今も年賀状やメールでの付き合いがある。神戸に帰ってきて余計それを感じる。あとから遅れて入ったので、あいさつに来ないなど言われた。月1回の掃除にもほとんど出ない。奈良では必ず出る。出ない人はお金を出してバランスをとっている。ここでは急の引っ越しなので一歩外に出ればわからない。いろいろな集まりがあるが急には無理なのではないか。地震は「自分にはない」と思っていたことが振りかかる、「悪いものは来ない」と思っていることにも準備することを知った。年配者は閉じこもりがちになる。ボランティアが訪ねて行ってやってほしい。自分もいつそうなるかわからないので、気をかけてやってほしい。と優しい気配りのあるお話しを伺う。(華山、東條)

・70代女性、一人暮らし。長田で被災。地震のときも一人でねこと一緒だった。今困ったことはない。写生や絵や習字など考えないで集中できることが好き。友人とストレス発散に外出はよくする方。今孫が来ているので、と元気そうで楽しそうな雰囲気でした。最後に、近づく参議院選挙の宣伝をされておられた。(増田、若木)

・50代女性、夫と2人暮らし。兵庫で被災。家がつぶれて娘と二人抱き合っている。近くの塔が

倒れると、着の身着のまま避難した。家に戻って過去帳とおわんと鍋だけ持ち出して、どこまで話されて声を詰まらせ目を赤くされた。「ゴメンナサイね、地震の話になると涙が出て」。震災後、死にたいと思ったこともあったけど、友人からもらったペットに癒された。何回も救急車で運ばれ、市場で倒れたこともあった。地震の後遺症なのか、足の裏から工事をしているようなダダダッという振動が脚にのぼってくる。気持ち悪いが原因はわからない。精神科にも通っている。「地震前は、私はちょっと高くから人を見ていたところがあるけれども、地震のあとはボランティアをしたり自治会の役をしたりするようになった。」両隣の方もほんとうに良い人達で、それは助かっている。近くの働きに出ているのもよいのかもしれない。人前では元気に振舞ってしまうので、「どこが悪いの？」と言われてしまう。ペットに癒されていると何度も言われていた。地震の話になると涙ぐまれ、ほんとうに辛い体験だったのだなと痛感させられる約1時間のお話を伺う。(大森、原、堀内)

・50、60代ご夫妻。中央区で被災し家は全壊したが怪我はなかった。夫は入退院を繰り返し今は妻のパートで生計。何が困っていると言って、金がない。上の階から飛び降りようかと思うくらいですわ。と、戸口でのお話し伺い。(猪上、佐沢、阿久沢)

・60代男性、一人暮らし。地震のときは京都にいた。神戸に来て4年。大津でリストラに遭って渡り歩くうち、やくざに年金の証書や手帳をとられ警察からも見放されて脅され、ホームレスとなって神戸に逃げてきた。ハローワークへ通っていたが全然仕事がなく、神戸の冬を支える会に炊き出しでお世話になり、おにぎり2個もらって話を聞いてくれ、一生懸命世話をしてくれて、2年前にここへ入った。奥さんは亡くなり病気を抱えて身内もなく、年金の不足分をもらって福祉の世話になった。近所との付き合いはなく月1回の掃除ではそんな話しは出ない。ボランティアの皆さんへありがたい。夜回りの皆さんへ、礼もようせんと申し訳ないと伝えてくれ、とのこと。部屋は清潔に片付き、ベランダに花の植木鉢も見られ、訪問者もうれしく感動して部屋を辞す。(矢野、東條)

・50代女性、子ども達夫妻と孫と生活。母子家庭で4人の子どもを育て、震災でここへ入るまでがたいへんでしたけど、震災前は小さなマンションに住んでいたの、ある意味震災のおかげでこんな新しいところに住ませてもらって、震災はなかった方が良かったけど震災がなければ今どんな暮らしができていたかわからなかった。震災時は子どもがみんな学校に行っていたけれど、今は卒業してうち2人は結婚して孫も一緒に住んでいる。皆さんにはお陰様で、と感謝をされた。(猪上、原、佐沢)